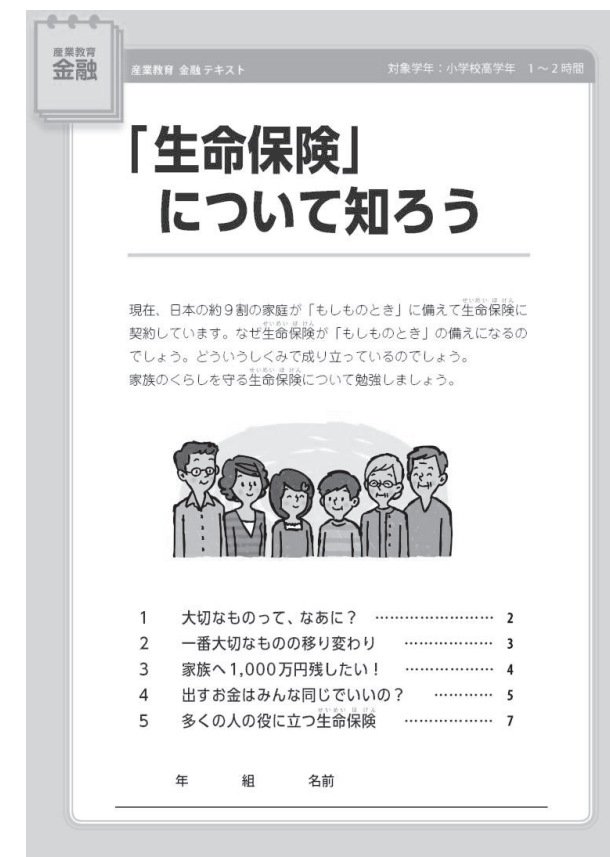


「生命保険」について知ろう



産業教育研究会

松山 英樹

主な発問・指示

生命保険は、「もしも」のことがあった場合には、あらかじめ決まったお金が受け取れます。いつ起きるかわからない「万が一」に備えるために、生命保険があるのです。

5. 多くの人の役に立つ生命保険

〈問6〉

1日当たりでどのくらいのお金が、生命保険会社から加入者に支払われているのでしょうか。近いと思うものに○をつけましょう。

- () ①一台 100 万円の車が 80 台買えるくらい。(8,000 万円)
 () ②一台 100 万円の車が 800 台買えるくらい。(8 億円)
 () ③一台 100 万円の車が 80,000 台買えるくらい。(800 億円)

年間約 29 兆円(1日当たり約810 億円)ものお金が、保険金や給付金といったかたちで支払われており、多くの人たちの生活に役立てられています。

加入しているみんなで助けあっているしくみが生命保険なのです。

6. 授業の感想を書きましょう。

※ご参考

- 全生保の生命保険の世帯加入率 88.7%
 生命保険文化センター「生命保険に関する全国実態調査(平成30年度)」より
 ○日本国内で生命保険業の免許を受けている生命保険会社は 42 社
 金融庁HPより、2021年1月4日現在
 ○世帯主ひとりあたりの全生保普通死亡保険金額 1,406 万円
 生命保険文化センター「生命保険に関する全国実態調査(平成30年度)」より

《指導にあたって》

- 問題文や説明の文は、適宜子どもたちに音読させる。その際、難語句があるので、教師が範読した後で子どもたちに読ませることが望ましい。
 ○子どもたちの作業には時間差が生じる。そのために、次のような手立てをとり、時間差をうめるようにする。
 ・早く終えた子に発表させる。
 ・早く終えた子に読ませる。
 ・早く終えた子に板書させる。
 また、発表させたり、板書させたりすることで、わからない子の参考にさせる。
 ○答えを書かせたら、手を挙げさせたり、発表させたりして、確認をする。

指導上の留意点

・預貯金では、「もしも」のときに備えられないことを、図を使って説明する。

・○をついたら、挙手させて人数を確認する。考えの理由を発表したい児童がいれば、発表させてもよい。

・声に出して読ませる。

・時間があれば数名に読ませる。

1. **対象学年**：小学校5・6年（1～2時間）
2. **ねらい**：身近な例を挙げて生命保険について知らせ、関心をもたせる。
3. **進め方**：テキストの通りに進める。テキストの発問を読み、子どもたちに答えさせていく形である。テキストを1枚ずつコピーして配布していく形で進めてもよい。

主な発問・指示	指導上の留意点
<p>《テキストの表紙より》 現在、日本の約9割*の家庭が「もしものとき」に備えて生命保険に入っています。なぜ生命保険が「もしものとき」の備えになるのでしょうか。どういうしくみで成り立っているのでしょうか。家族のくらしを守る生命保険について勉強しましょう。 *ご参考(4P)参照</p> <p>1. 大切なものって、なあに？</p> <div data-bbox="153 691 861 817" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈問1〉 あなたにとって大切なものはなんですか。イラストを参考に して、思いついたものを下の口の中に書きましょう。</p> </div> <p>書いたものを発表してもらいます。</p> <p>2. 一番大切なものの移り変わり</p> <div data-bbox="153 1020 861 1174" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈問2〉 「あなたにとって一番大切なものはなにか」について調べた グラフです。このグラフを見て、わかったこと・気づいたこと・ 思ったことをか条書きしましょう。</p> </div> <p>書いたものを黒板に書いていきましょう。</p> <p>書かれたものについて質問や意見がある人は発表しましょう。</p> <p>3. 家族へ1,000万円残したい！</p> <div data-bbox="153 1474 861 1754" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈問3〉 問題を読んで、答えましょう。 (1) 4人家族のお父さん(40歳)は、お母さん(38歳) お姉さん(14歳)弟(11歳)と一緒に暮らしています。 お父さんは、自分が死んでしまったときに、家族が困らない ように、家族に1,000万円残したいと考えました。1か月に 1万円ずつ貯めました。 1,000万円貯まるのに何か月かかりますか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト表紙を読み、今日勉強することを知らせる。 ・生命保険という言葉聞いたことのある児童がいるかを尋ねてもよい。 ・教師が問題文を読む。 ・1～2分程度書く時間を確保する。 ・できるだけ多く発表させ、それぞれに大切だと思うものがあることが分かればよい。 ・できるだけ多くを板書させる。このとき、例えば3つ書けた子から黒板に1つ書きましょうなどとするとよい。 ・計算させる。

主な発問・指示	指導上の留意点
<p>「こんなに年数がかかっては、この貯金には意味がありませんね。1,000万円貯まるまでに家族も死んでしまうかもしれません。」</p> <div data-bbox="1484 311 2192 552" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(2) そこで、お父さんはまた考えました。いろんな人に声をかけて仲間を増やすことにしたのです。そして、自分をふくめて100人が仲間になりました。100人の仲間が、ひとり毎月1万円を貯めます。すると、毎月100万円ずつ、1年で1,200万円貯まります。自分や仲間の誰かが死んだときに、貯まっていたお金から1,000万円がもらえるようにします。</p> </div> <p>お父さんのこの意見に賛成の人は○、反対の人は×を□の中に書き、その理由も書きましょう。</p> <div data-bbox="1484 697 2192 832" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>みんなで少しずつお金を出し合って、もしものときに備えるしくみ、それが相互扶助です。生命保険は、相互扶助のしくみを用いています。</p> </div> <p>4. 出すお金はみんな同じでいいの？</p> <div data-bbox="1484 967 2192 1112" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈問4〉 ある日、毎月1万円ずつお金を出し合っている100人の中のひとりが次のようにいいました。「このやり方は不公平だ。」どんな人がいたら、どんな理由で不公平になりますか。</p> </div> <p>こういう人がいたら、こういう理由で不公平だ。のように書いていきましょう。</p> <p>もしものときに備えてみんなで少しずつ出し合うお金を「保険料(掛け金)」といいます。生命保険の保険料(掛け金)は、公平にするために、たとえば、下のことに当てはまる人からは、たくさんもらうことになっています。</p> <p>年齢、健康状態、性別などによって死亡する可能性はちがいます。死亡する可能性に応じて、保険料(掛け金)が異なることで、生命保険は公平性を保つしくみになっています。</p> <div data-bbox="1484 1547 2192 1663" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈問5〉 生命保険に加入せず普段から預貯金をしておけば、「もしもの」ときに備えられるでしょうか？○をつけましょう。</p> </div> <p>() 備えられない () 備えられる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人数の分布を確認して、理由を発言させ話し合う。 ・教師が読んだあとに、児童に読ませる等、声に出して読ませる。 ・「～人がいたら、～なので不公平です。」のように発表させる。